

戸については鉄・マンガンの検査を年11回行っている。水質に問題はない。阿用川については、検査の数値では非常にきれいな水ということになっている。3箇所くらいでの水質検査という要望であるが、水道局としては取水口付近の検査を行う。それ以上の箇所を設けて検査ということは考えていない。汚れている場合にはご連絡を頂きたい。状況を調査する。(水道局)

## 19. [国際交流]

## 20. [健康・医療・福祉]

### 吉田町田井地区

#### Q288 [雲南総合病院の窓口対応の改善について]

雲南病院のことで聞きたいが、自分のことであるが先般4月29日に病院へ行って初診であるため午前8時30分から午後2時30分まで掛かった。次に行った日に時間待ちをしていたが、何故こう待たなければならないのかと聞いたところ、予約をしていないからとのことであった。

一方、仁多病院へ行ったときには朝8時15分から20分ぐらいまでに今日の予約を入れれば、次回の早期受診が可能であった。

例えば予約の人は11時からの受診であれば10時30分、40分ごろまで行けばいいが、初めての人は午前8時30分から午後2時30分までかかったとしても、その間に予約を入れれば、次回は早期に診てもらえるような雲南病院の対応が必要ではないかと思う。

初めての人はいつまで待てばいいのか。先生が少ないとか、経営が苦しいとかといったこともあるかもしれないが、何とかできないものなのか。

次に別件であるが、5月7日に行った時にシップをもらいその後なくなったので18日に再度もらいに行った。受付でその旨を伝えると「今日は保険でいっぱいですから診れないので帰って下さい」と言われて、再度、事務室へ尋ねたら保険の範囲内で今月はシップがもう出せないとのことであった。

まさか保険が切れているのかという不安もよぎり、これについては病院の窓口での親切丁寧、分かりやすい説明が必要であることを痛感したので、改善を要望したい。

A

待ち時間が長いというのは、雲南病院は常勤医が少ないというものの、奥出雲病院よりは多いということで、常勤医一人当たりの診る患者数が多いというのも理由であると思われるが、これからも工夫をこらして待ち時間が少なくなるよう雲南病院へ伝えていきたい。

また、薬の出す際の対応もおっしゃるとおりで、説明責任を基本に親切、丁寧な対応が必要であり、接遇の問題でもある。より市民の皆様に理解していただけるような対応をしたいと考える。(市長)

#### Q289 [国保保険証の改良について]

関連として、国保の保険証の字がよく見えないので、もう少し字を濃く出すとか印刷が何とかならないものなのか。自分の名前もよく聞き返されることがある。

A

数年前に保険証については、各自1枚毎に変更させていただいたが、字が小さいということは他の方からも指摘をいただいている。自前のプリンターでやっている状況でどれだけ費用がかかるか分からないが、出来るだけ早い内に対応をするのでしばらくお待ち願いたい。(市民部)

#### [追加意見]

市長へ言った病院の窓口対応の件も、受付の事務員を通じて病院へ言ったところ事務所内でも問題になったということなので、一応そのことをお話ししておく。

また保険証を自前で作るのはわかるが、なるべく濃く(印刷)出してもらいたいのでもよろしく願いたい。

#### Q290 [雲南広域連合に係る報道について]

2、3日前にラジオで雲南広域連合の報道があった。新聞に載っていなかったのどのような報道があったのか伺いたい。

A

冒頭にお話をして、お詫び申し上げなければならないことであった。失礼をした。

現在、介護保険を1市2町で保険者となって運用しているが、平成12年4月から介護保険がはじまり3ヵ年を1事業期間として実施している。従って平成20年度までは第3期事業期間で、平成21年度からは第4期事業期間となっている。

第3期までは、保険料の区分は6区間であった。しかし6区間であった場合年収が200万円以上の方は一律に保険料が月6,000円となっているので、これでは200万円超の300万円、400万円、800万円の方も6,000円ということになるため、大まか過ぎるということで、雲南広域連合の場合は、第4期事業期間からこの6区間を10区間として、500万円以上の方を8,000円にするとかといった10段階方式とした。

介護保険の給付費を賄う保険料については、当初から介護保険事業の対象が増えてきたことにより、給付費を保険料だけでは賄うことができなくなり、その差額分を国の毎年度の調整交付金で補填をしてきている。

今回その交付申請をするときに、10段階であるところを（国が6段階であるので）本来なら6段階に引きなおして申請をしなければならないところを、その6段階目に6から10段階のところをまとめて組み入れて申請をしてしまったことにより、結果的に申請ミスが発生してしまった。

同じ申請ミスをしたのが、大阪の広域連合とか、北海道の広域連合とかであったが結果的には間違いの申請をしたということ。

その結果、まともに申請をすれば5億4千万円ぐらいの交付金があるはずが、間違っ申請をしたことにより約9千4百万円少なく交付された。

その後、その不足分の交付を国に申請し交渉してきたが、国は10分の7を出すということで、10分の3の2千9百万は入ってこないことになった。

それにより平成22年度の保険料が高くなることはあってはならないことで、不足分は介護保険事業の4億の基金があるので、それを運用して不足分にあてることとなる。

それだけ基金が少なくなるが、これは今後10分の3の不足部分の交付を国にさらに申請していくことと、介護予防にさらに力を入れていきたいと考えている。

介護予防は、すぐに結果がでるわけではないが、これまで市がすすめてきた身体教育医学研究所の事業や、介護予防事業などの継続実施により雲南市でもさらに医療費を少なくし、その結果介護保険料についても少なくなっていくということが、現実の問題として大切である。

また、二度とこういう間違いをしないように徹底していきたい。（市長）

[追加意見]

2千9百万円というのはかなり大きな額である。皆さん保険料を払っているの、今後間違いがない適正な事務処理を実施していただくようお願いしたい。

掛合町掛合地区

Q291 [えがおの里入所者の往診について]

掛合には特別養護老人ホームえがおの里があるが、ショートで入所した際に、往診に先生が来られないようになり、足の不自由な方などを車椅子に乗せて近所の病院に連れて行くとか、救急車しかできないようになった。なんとか診療所の先生にでも往診はしてもらえないでしょうか。

A

今えがおの里は嘱託医で清水先生と診療所と交代、交代で行なっている。（健康福祉部）

掛合町多根地区

Q292 [特養施設の救急医療体制等について]

高齢化率が上がっている現状で、特養施設の待機者が多いと聞いている。雲南市全体の実態はどうか。

そういった実態がある中で施設拡充の考えはあるのかどうかお聞きしたい。今後ますます高齢化率というのは上がってくるし、家庭で介護が必要な方を見るということもなかなか負担になってくるという状態も多数出てくるので、そういう考えと合わせて、そういう実態があればそういう施設を作る中で地域の創設という意味合いでもいい考えに結びつくのではないかと。

あわせて、そういう施設は医療機関との連携が非常に必要になるかと思う。掛合には診療所があるけれども、なかなか夜間急に具合が悪くなった場合でも、なかなか受け入れができない中で雲南病院であるとか、出雲の救急病院へ行くという実態もあるように聞いているので、医療機関との連携がもっと密に図れるよう、雲南病院の方もそうですが、地域に密着した掛合診療所であるとかそういうところの救急医療体制なりをもう少し進めることができないかという思いを持っているのでそういった点もあわせてご回答いただきたい。

A

待機者はいるが、具体的数値は現在持ち合わせていないので、後ほど何らかの方法でお知らせしたい。施設整備の計画については雲南広域連合が策定する雲南圏域の介護計画に基づき行われている。現在では今年度加茂で認知症型のグループホームを今回整備する予定で、逐次待機者が出ないような形で進めている。医療機関との連携について、地域での診療所との連携はどうかということについては、現在診療所の先生が1名体制で、夜間や休日の拘束は難しいのが実態であり、常時救急体制を取るとは困難であるため、雲南病院を紹介してそこへ行っていただくことになっている。(健康福祉部)

[再質問]

介護をすることになると、できれば家庭の近くにそういう施設があれば施設に行って顔を見るということもできる。現在も待機をしながらやむなく市外の施設にいる人もたくさんいると思うので、できれば近くで見えていただける施設が充実すれば、家族も安心だし入られる人も、遠く出雲の方の施設から家族を思うよりも近くにいて家族の顔がたまによく見えたほうが、高齢者の方の安心につながると思うので、そういった点の充実をぜひお願いしたい。

A

雲南地域で雲南広域連合として、介護保険事業を運営しており、雲南地域全体で待機者数は約700人、雲南市内では確か500名近くだったように見込んでいる。その方々が全員入れるに越したことはないわけだが、施設を作って行けば行くほど介護保険料が上がっていくので、その介護保険料との兼ね合いもある。また介護事業そのものが本来は在宅介護の体制を充実させるということで発足しているのでも、在宅介護をどのような形で充実させていくかということと、待機者数をどうやって解消して行くか、手っ取り早いのはとにかく特別養護老人ホームをはじめとする福祉施設をどんどん作っていけばクリアできるが、その後はどうするかという問題もある。

現在の介護施設数と在宅介護をやっていただくためのマンパワー、世話役の確保、家族の方でお世話するというのは大変なので、それをどうやってサポートすれば在宅介護しやすくなるか、マンパワー、ソフトの充実、その辺もかみ合わせて考えていく必要がある。

特別養護老人ホームの数は雲南圏域には9つあり、県内医療圏域の中でも非常に多い圏域なので、今後さらなる待機者の減少対策、おっしゃるように出来るだけ家の近くから通えることも頭に入れながら、どうやってそれをソフトで克服して行くか、通いやすい移動対策というようなものも頭に置きながら検討していく必要があると思う。(市長)

Q293 [掛合診療所の夜間診療について]

診療所の先生は市の職員か。夜の診察はしないという話か、法律的に難しいという話か。おられる時には見てもらえるのか。

A

先生は市の職員。夜間診察については、夜勤時に家に待機していないといけないし、代わりの先生もいないので、今はやっていない。(健康福祉部)

掛合町波多地区

Q294 [出張診療所のトイレ改修について]

波多出張診療所のトイレ改修について、昨年度の12月か1月にお願いをしたが、残念ながら当初予算には載らなかった。

現在のトイレは狭く、高齢者の女性の皆さんが検尿時等に苦勞している。二つのトイレを一つにして広い面積にしてほしい。経費的にはそんなに大きな金額ではないので、今年のうちをお願いしたい。

A

春に話を伺っている。また昨年 of 市政懇談会でも聞いている。

出張診療所を交流センターへ移転してもらえないかという話であったため、準備を進めてきたが、昨年の12月、波多コミュニティから、高齢者の意見を聞いたところ、交流センターには坂があって使いづらいという意見があったため、元の場所で診療を行なってもらいたいという要望を受けた。

また、同時にトイレが古く、狭くて使いづらいため改修をお願いしたいということであった。現場を確認したところ、何とか一つにして広く改修する方向で進めてきた。

ただ現在の施設は、旧波多中学校の管理棟を使った建物で、40～50年経過しており老朽化が進んでおり、何十年も持たないということがひとつはある。今後、大規模修繕や全面改修が出た場合、建て替えができない。

使えなくなった場合は、だんだんタクシーで掛合診療所へ出ていただくか、交流センターへ移転してもらうかの方向で検討をしていただく方向で確認をさせてもらっている。

トイレ改修については、9月の補正で対応したいと考えている。(健康福祉部)

トイレについてはできるだけ早く改修します。(市長)

#### 掛合町入間地区

##### Q295 [入間ふれあいセンター浴槽の修繕について]

現在、旧入間小学校が改修中であるが、完成後は宿泊所ではないため、研修生が泊まることになると浴室はなくシャワー室のみである。現在、近くに社会福祉協議会が指定管理を受けている入間ふれあいセンターに大きな浴室がある。旧掛合町時代にデイサービスをしていたときのステンレス製の浴室である。これを通学合宿等開催時に活用させていただいているが、非常に調子が悪い。3時頃からお湯をためて夕方やっと入れるような状況である。これは、利用頻度の問題だから直せないということを耳にしている。年間使うのが1～2回程度だからと言われているが、今後のことを考えると小学校の改築とセットにしてなんとかしてもらいたい。

今年使おうと思って見たところ、羽ありがいっぱいであった。今後、建物本体の方へ移動していくこともあると思う。この件について、今後、どのような形で要望するか、陳情するかを検討している。自分も社会福祉協議会の一員なので、社会福祉協議会として申請をするのかということもあるし、そもそも指定管理を受けるなど支部長に話していたが、結果的に受けた状況である。

また、ふれあいセンター外のゲートボール上(庭)に苔が生えている。苔は取ってもらったが、このゲートボール場が整備されれば掛合町の老人会あたりでの利用の需要が上がってくると思われる。そのような時に浴室があったり、畳の部屋があったりするので非常に使い便利の良い施設であることは確かである。そのような観点から、もう一度あの周辺を見直していただきたいと思っている。

A

現在、ふれあいセンターは社会福祉協議会に小規模多機能居宅介護施設として指定管理をしていただいている。併設するコミュニティセンターは、以前老人クラブでご利用いただいていたが、現在は利用希望があれば利用料金を払っていただくことになっている。

施設を主に利用しているのは、社会福祉協議会のはつらつデイサービス事業で、デイサービスについては現在事業の中で浴室は使われていない。浴室は、最初の段階からボイラー容量が非常に小さいものが付けられており、湯がなかなかたまらない状況である。指定管理者の管理的には浴室は利用していない状況である。

先ほど使用頻度の話があったが、市としても、今後どのように扱うのか考えていかなければならない。また指定管理者から羽ありのことは伺っており、今後調査をしていかないといけないと考えている。今後、本庁、社会福祉協議会を含めて協議し、方向性を出していきたいと考えている。

ゲートボール場についてであるが、小規模多機能として改修を行なったときに、ぜひ人間地区へという要望をいただいた。また、保育所の遊具については、遊具の撤去を相談したときに、地域の子どもたちがかえてきたときに遊べるので残してほしいという要望があり残した経過がある。

ゲートボール場は、老人クラブで使っていたが、部員が変わったことが理由なのかは判らないが、使用頻度が低くなってきている。あまり使用されないと、管理が難しくなることもあって苔が生えてしまったという状況である。

今年度、社会福祉協議会に相談をして、苔をはがしてもらっているが、今後どのように扱うか考えていかなければまた同じことが起こるので、健康福祉部、総合センター、地元とともに考えていきたい。(掛合総合センター)

補足をするが、そういう状況は一刻も早くなくす必要がある。社会福祉協議会と協議をして有効活用ができるような対策を講じる必要があるのでまた相談をさせていただきたい。

ゲートボール場の苔対策は、行政が果たすべき役割、社会福祉協議会、地域が一体となって公共施設や自分たちが使う場所の管理を、地域自主組織が発足した以降は特に力を出し合って管理していかなければならないのでその際にはまたご相談をさせていただきたい。(市長)

### 三刀屋町鍋山地区

#### Q296 [人間ドックについて]

人間ドックは雲南市内の医療機関で受けるようにと言われたが、脳ドックは雲南市と提携している市外の病院で受けられる。人間ドックも普段からかかっている市外の病院には以前受診していた何年分ものデータがあるので、受診者の選択で病院を決めることにはならないか。

#### A (事後直接回答)

市といたしましては地域医療を守る観点から、拠点としての市内の3つの医療機(雲南総合病院、平成記念病院、掛合診療所)と人間ドックの契約を行い市民の皆様を受診いただいております。お気持ちは理解できますが、契約していない松江市内の病院での受診はできかねます。

脳ドックの受信は、原則5年に1回となります。また、市内の契約医療機関でドックを受診され治療が必要な場合は、紹介状を作成していただくことはできますので、ご自分のかかりつけ医で受診できます。

医療機関から前回までの検診の結果を市内のドック契約病院へ提供いただきたいとのことですが、電子データにつきましては、個人情報であり持ち出しは難しいと思われま。

どこの医療機関でも申し込みした当日の受診は、できにくいと思います。(健康福祉部)

### 三刀屋町中野地区

#### Q297 [雲南総合病院の移転について]

議会で質問があったようだが、市民病院の移転について予算的なものもあって、当面はむずかしいとのことだが、老朽化も激しいし、位置も不便であるため、市役所を建設される際に同じエリアに市民病院をつくればいいと思う。複合施設が一体化した場所があればいいと思った。

#### A

雲南総合病院の移転についてはお金の問題ではなく、昭和40年代からいろんな歴史の中で活用されており、病院と大東町とのつながりも大きいものです。雲南市の中心に移転できれば良いことだと思いますが、土地もなく、また大東町から病院がなくなることは大きな問題になる。また市役所は合庁周辺に平成26年ごろに建設予定だが、解決しないといけない問題も多いので、限られた時間のなかで現実的な対応をとっていかねばいけません。(市長)

### 加茂町神宝の里21、三代・下神原、大竹延野地区

#### Q298 [雲南総合病院の患者対応について]

昨年、父が雲南病院に入院し、家族も泊まりで介護していたが、患者に対する環境が悪い。建物が古いのは分かるが、看護師の私語が気になった。かなり我慢した。自分の妻も看護師なので苦労は分かる。無

駄を省くことも大切であるが、地域の住民の健康を一番に考えた施策を行ってほしい。健康なくして、まちづくりはできない。

A

雲南病院の看護師の対応について、管理者として、まずもってお詫びを申し上げる。健康第一は、ごもつとも。施設面では他とのバランスがあり、すぐには難しいかもしれないが考えていく。(市長)

加茂町立原、近松・南大西、三郷の会、宇治、宇治団地、宇治亀山団地地区

Q 2 9 9 [雲南総合病院の市立病院化について]

雲南病院市立化によって雲南市の財政状況は、どのようになりますか。市立病院としてどのように再出発されるのかお聞きした。

A

収支均衡を目指す中で、いつまでも病院への財政支援を続けるわけにはいきません。基金の取り崩す額は年々少なくなはなっていますが、経営健全化というところまでは、まだ時間がかかる状況です。診療科の再編なども検討しながら経営改善をはかっています。(市長)

[再質問]

市民として病院の経営改善の手助けできることはないですか。

A

市民の皆様にはコンビニ受診を避けていただく、開業医を受診していただくことをお願いします。(市長)

Q 3 0 0 [関連質問]

雲南病院で大変お世話になりました。医師、看護師さんには親切丁寧に対応していただきました。先日、ガン検診を受けたが、一人の担当者が何役もこなしておられました。財政が厳しいとは思いますが、出来る限りの援助をお願いします。

A

医師、看護師の増員についても市立病院化に合わせて進めていきます。(市長)

加茂町加茂あかがわ連合会、加茂中団地地区

Q 3 0 1 [雲南総合病院の市立病院化について]

公立病院の市立化には、どんなメリットありますか。市立化によって、救急病院化はなされますか。いつまでに、どうするのかという目標はありますか。目標を具体的にスケジュールも含め示していただきたい。市役所全体で取り組んでいるという姿勢を示していただきたい。

A

市立病院化することで、「研究所うんなん」の病気予防活動も連携しやすくなりますし、雲南市の独自の判断で運営できるので、機動力が発揮できると思います。

救急病院の再指定については、常勤医師が増えることによって可能と考えておりますが、医師確保のために大学病院との連携におき、そのようなシナリオとなるようにしたいと思います。

目標は、なかなか示す状況にありませんので、目標が描けるように努力していきます。(市長)

加茂町中村・昭和・星野・雲並、東谷、砂子原、中村団地、東谷団地地区

Q 3 0 2 [雲南総合病院の医師確保について]

雲南病院の医師確保に向けて、更なる努力をお願いします。

A

島根大医学部との連携を強化することが医師確保に繋がると考えております。来年度から島根大医学部出身の先生が雲南病院の院長になられます。そのことによって 島根大学医学部から雲南病院へ医師を派遣してもらいやすい環境づくりに大きく貢献すると考えています。こういった対策を1つ1つ積み上げていきたいです。(市長)

Q 3 0 3 [関連質問]

医師が自ら雲南病院に赴任したくなるような医学教育的な特色を出すことによって、医師確保をする考えはありませんか

A

特徴ある病院づくりは考えています。雲南病院にも股関節の名医がいらっしゃいます。整形外科に関わらず、優秀な医師を招いていきたいと考えています。島大医学部出身の院長を迎えることで、島大医学部の医師が雲南病院と行き来がしやすい環境づくりを進めることが特色につながると考えています。病院も改革を行っていますので、市としてもバックアップしていきたいと思えます。(市長)

Q304 [相談機能の維持について]

総合センター職員の減少に伴い、相談機能の低下を心配しています。個人的な考えですが、保健師さんは事務職ではなく、現場主体の専門職と認識しています。社協と保健師さんと協力して相談に対応しているので、相談機能の充実については、格段の配慮をさせていただいて、総合センターの職員配置の検討を進めていただきたいです。

A

新庁舎建設を検討しながら、総合センターの職員配置も検討しているところです。(市長)

保健師の相談対応の件数は増えていると認識しております。合併後、退職により保健師の職員数も減っていましたが、今年度は採用計画も立てています。現在、保健師の配置も検討しているところですので、いただいたご意見も参考にさせていただきながら議論していきたいと思えます。(健康福祉部)

木次町新市地区

Q305 [公立雲南総合病院の市立病院化について]

雲南病院の市立病院化について、木次町出身で町外の医学部出身の人がおられるが、そういう人にふるさに帰ってもらえるような施策・勧誘があればいいと思う。また住み良いまちづくりと暮らしやすいまちづくりは違う。暮らしやすさは利便性。住み良さはプラス人間関係。人間関係を良くすることが重要。大事なものは人の悪口を言わないということ。

A

「住み良い」と「暮らしやすい」については、人によって捉え方が違うとは思いますが、もう一回勉強したいと思えます。島根県により中国地方5県の大学の医学部を通じて、入手しうる限りの情報をあたっていますが、結果に結びつきません。待遇が悪いということもあるでしょうが、医師の方々の中には医局との繋がりが強く、しほりがあるようです。雲南市が良い所であり、そのしほりを振り払ってでもきてくれる人が出てくることを願っています。(市長)

木次町西日登地区

Q306 [在宅介護の支援について]

認知症を患う家族が事故で寝たきり状態になり、病院に入院したが、治療が終わったので転院を勧められ、転院した。本人も帰りたがっているし、家族としても家に連れて帰ってあげたい。家族だけではできないことも自主組織などが協力することで何かできないものか。施設を建てるばかりではなく在宅介護の支援も雲南市または西日登でできないものか。

A

おっしゃるように家族の手で余りある介護を地域で行っていくことは目指すべき方向であると思えます。今回は医療を伴う状況ということですので、病院で治療を受けながら過ごされるべきであり、特別養護老人ホームなど、医療との連携が十分に、持続的に保てる環境が必要です。医療を伴わない対策ということになれば、地域のグループホームなど、自宅から近いところに入れる施設というのがまず目指されるべきものとなります。医療や専門技術が伴わない場合にそういうものが可能となると思えますが、今回のようなケースには個別に相談に乗らせていただきたいと思えます。(市長)

Q307 [関連質問]

介護する側の負担が大きな問題となっている。雲南市内には介護施設の数が十分でなく、入所待ちの方

が多いようだ。介護について市として実際にどんな施策を持っているのか聞きたい。

A

介護保険事業は現在雲南市、奥出雲町、飯南町の1市2町で取り組んでおり、介護保険の保険者は雲南広域連合となっております。旧10町村の中に特別養護老人ホームが9つあり、充実度はかなり高いほうです。にもかかわらず雲南市でさえ待機者数は約450人、1市2町で700人近くもおられ、なかなか入所できない状況となっております。となればこれまで以上に病気にならないように、介護の世話にならないように、ということも併せて行っていかなければならず、生涯現役・健康長寿が実践できる施策を行っていくと同時に、介護保険料ができるだけ高くないような、介護度が高くないような施策が講じられなければならないと思っています。(市長)

木次町斐伊地区

Q308 [身体教育医学研究所うんなんについて]

雲南総合病院があと1年で市立化ということだが、現在の医師不足、医師確保の状況はどうか。施策の3点目「安心・安全のまちづくり」の中の「市民の健康づくりの支援をする」のときの「身体教育医学研究所うんなん」とはどういうものなのか。

A

雲南病院の市立化は医師不足対策ということではなく別問題です。これまで1市2町で経営していたものを、それぞれ町立病院を持つ奥出雲町、飯南町が手を引きたいということでこの話がでてきたものです。医師確保については、島大医学部と連携を深めて常勤医師の確保することを考えております。病院の規模も考える必要があり、診療科数、ベッド数の削減も考慮しながら、黒字経営も行いながら、中核病院の役割も持たなければならないと思っています。また、医療と保健の融合施設については、合併時に「市に何を求めるか」というアンケートをした際、1番目が高齢者福祉をはじめとする住民福祉の向上、2番目がそういった場所の確保、3番目が医療の充実となりました。そのため、この健康長寿、生涯現役の理念のために研究し実践する施設が必要ということで「身体教育医学研究所うんなん」ができました。運営委員長が東京大学教育学部長の武藤芳照先生という方です。運営委員として島根県医師会、雲南医師会、雲南総合病院、玉造厚生年金病院などの先生をはじめとする方々をメンバーに発足しており、旧吉田村のケアポートよしだで行っていた水中運動や転倒予防教室を引き継いでやってきたところです。平成17年の国勢調査によると平均寿命は山陰両県で雲南市が一番です。新しい融合施設としては加茂町のB&Gをリニューアルして温泉プールにする予定としており、研究所の60人の指導員に協力いただくことにしております。ただ財政計画上、建設が可能かどうかというのがまず大事ですので、計画素案を作って市民や議会へ示せるよう作業している最中です。(市長)

[再質問]

もっと市民にわかるようにしてほしい。市政懇談会や市報などを利用してもっと説明をしてもらえればありがたい。

A

研究所の活動はケーブルテレビでも放送しています。DVDもあります。広報等にも記載しています。今後よりわかりやすいPR方法を考えていきたいと思っています。(市長)

木次町下熊谷地区

Q309 [低所得者の介護保険料について]

介護保険料は7段階から10段階へと上がったが、相変わらず高額が天引きされる。高額所得者は上限が決まっているが逆ではないか。一定所得以下は介護保険料を廃止すべき。温泉施設の建設というが、既存の施設は経営が大変。おろち湯ったり館は税金が投入されている。市民バスもそう。税金で市役所の仕事を取っているのはおかしい。

A

介護保険については、事業者として成り立つのは人口5万人以上のところであり、雲南では雲南広域連合として1市2町で行っており、一定のルールを設けております。現在4期で10段階にし、できるだけ

所得に応じて、所得の低い層が払わないようにしていますが、ただにするわけにはいきません。できるだけ介護が必要ない過ごし方を構築していけるよう、介護予防に重点をおいて、介護保険にかかる事業費が少なく済むようにしたいと思っています。早まった査定や実際の介護度と違うケースもあり、介護度が高い方に設定されると保険料も高くなるという悪循環がありますので、そうならないように適正な査定が必要です。病気になるように、介護を必要としないような施策に力を入れているところです。(市長)

Q 3 1 0 [難病の会が交流会に参加する際の移動支援について]

難病の会があるがご存知か。自分は雲南パーキンソン病の患者の集い代表であり、奥出雲町との交流会も企画したが車椅子などで、移動手段がなくて行けない。難病は誰になるかわからず、予防もできないもの。会に少しでも助成をしてほしい。奥出雲町、松江市、安来市はマイクロバスを貸してもらえるみたいだが、雲南市にはそういう制度がなく、格差がある。今後予算を削って助成ができるものなのか。民間企業に助けてもらうしかないのか。そういう疑問が湧いている。

A

ご意見をいただきましたので実態を把握して、何らかの対策が取れるように対応していきたいと思しますのでお時間をいただきたいと思います。(市長)

木次町温泉地区

Q 3 1 1 [雲南総合病院の医師確保について]

医師不足問題について、雲南病院で勤務してもらうことを条件にして、島根医大の奨学金を市が公費負担で出せないものか。

A

学生への助成について、奨学金制度を雲南病院では設けております。県の奨学金制度もございまして、島大医学部や看護学部へ奨学金を出すということです。また地域推薦枠を5年間やって7人入学し、島大医学部へ入っていただいています。石見看護学校へは4人入っていただいています。(健康福祉部)

Q 3 1 2 [携帯電話基地局の電磁波による健康被害について]

電話基地局は湯村も建てるということで、常会等で説明したが、健康被害について心配という意見があった。私としても推進していただきたい思いがあるが、一部そういう意見があり市として見解があるか。

A

携帯電話の健康被害についてはかなり以前から議論されております。今年になってからWHOの見解として直接的な電磁波は影響ないという新聞報道があつております。携帯電話本体からも電磁波は出ており、一般家庭でも電磁調理器からも出ています。どの程度健康被害を与えるかというのは確固たるデータが出ていませんが、こちらとしてはその点については安心しております。(政策企画部)

木次町三新塔地区

Q 3 1 3 [福祉と防災について]

福祉や防災や防犯がやはり一番大切である。三新塔地区のアンケートでもそういう意見がたくさんあった。優先的にやるのが大切だと思う。

A

福祉としては高齢者に生きがいを持って、病気になるように健康長寿、生涯現役をまっとうできるあり方が求められます。子どもが過ごしやすい幼児福祉、社会的弱者に対する車いす賃貸等の提言もありましたが、目を向けていきたいと思います。防災・防犯については、地域に自主防災組織が設置されつつあり、大変良いことだと思っております。(市長)

木次町八日市地区

Q 3 1 4 [雲南総合病院の医師確保について]

雲南病院について、医師34人から18~16人に減ったということだが、34人いたときの医療行為が今できているのか。カバーできず、患者がよそに流れるのは病院の運営にとって重大な問題である。医師確保について具体的な対策をしてほしい。従来の患者はどういうところに流れていったのか。患者の流

れをつかんでいるのか。

A

最盛期と比べると16人減っており、直近の一般病棟の病床稼働率が90%くらいです。最盛期は95%くらいでした。16人減ると臨時医師を派遣いただきますが、高くつくので経営悪化を招きました。当面は医師派遣を各大学からお願いしたいと思いますが、毎週医師が違う状況では良くないので、できるだけ医師の数を増やして、同じ医師に診てもらえるようにしたいと思います。具体的には短期的には島根大学医学部との連携を強化する中で、医局から先生を派遣していただくことを実現し、また地域医療人育成センターを立ち上げ、島大医学部からの研修医を受け入れ、優先的に研修医を回してもらっています。その結果2年の研修ののち後期研修も引き続き勤めながらと言う人が現れて、近く19~20人になりそうです。中長期的には地域枠推薦ということで、島根大学医学部で学びたい県内出身の高校生を、いずれ雲南病院で勤めてもらう条件で市として推薦し、医学生が6年あるうち5年生が現在7人となっております。あと5~6年は時間が必要です。島根大学以外の大学とも連携を強く保ちながら勤めているところです。こうしたことをさまざま織り交ぜながら雲南市出身の医師で市外・県外にいる方にもアプローチしているところです。(市長)

患者がどこに流れていったのかということについては、平成20年度の調査で雲南病院で完結している患者が60.7%、松江圏への流出が20.8%、出雲圏への流出が18.1%、あわせて99.6%であり、ほとんどこの3つの圏域で完結されています。雲南病院も医師確保について地縁、血縁を通じたりして働きかけをしていますが、なかなか実を結びません。南棟を建設してから赤字経営ですが、それまでは黒字経営でした。平成14年度に経営改善をし、一定の兆しが出ましたが、平成16年度の研修医制度により医局指示から自由意志になり診療報酬のマイナス改定、未処理長期欠損金が24億8千万円となりました。改革プラン、ステップアッププランを組み、病院内でも改革を行い、質の高い医療を提供するための具体的な計画ができました。進捗状況をチェックするため改革プラン評価委員会を立ち上げ、市から副市長が出ております。地域医療人育成センターは医学部の研修医が1~2ヶ月研修するもので、たくさん来ておられ、その間主治医として見てもらえます。医療技術の高い先生のもとで勤めたい、となればと思います。(副市長)

#### 大東町塩田地区

##### Q315 [雲南総合病院の夜間診療について]

雲南病院の夜間診療の方法が変わったことについて、伺いたい。まず最初5,000円を払ってから診察してもらう様が変わったが、PR不足で、大部分知らない人がいる。自分も初めて知った。市民病院化となれば、市民から愛される病院にしないといけない。市が介入することは難しいかもしれないが、PRの方法をしっかりしてもらいたい。夜間、診療してもらいに行っても、慌てていたため、お金を持ってゆくことを忘れることはある。5,000円は無いが、診察が受けられるのか、受けられないのか、はっきり分からない。心に余裕があれば5,000円を持っていかないと受けられないということが分かっていたら、お金を持って行く。このことを市民全員が分かる様にしてもらわないと困る。よろしく願いしたい。

A

苦情は一杯入っている。平成21年3月1日からこの制度になった。最初に5,000円を頂いて、後から精算するようになったのは、未収金があったためです。実際やってみたら、皆さんにはご迷惑をかけ、また不快な思いをされた人もいた。こここのところで検討し直します。始める時にはホームページや告知放送でお知らせはしたが、十分な周知ができていなかったと思います。市立病院になったら、この制度は止めようという検討を始めているところです。公立雲南病院の段階でも早急に見直すという検討をさせていただきたいと思っています。そういう話し合いはしています。(健康福祉部)

##### Q316 [関連質問]

今は5,000円持っていないなくても、診てもらえるのか。5,000円無いと診てもらえないというのは、いけない。

A

5,000円無くても診察はしている。後から持ってきてもらうこともある。夜間救急診察の電話を受けた時に「5,000円持ってきてもらえないか」と言うようにしている。具合が悪いのにお金の話をするので叱られている。また、そのことを言わないと、「何で先に言ってくれないのか」と逆に叱られ、事務の方も困っている。本来は24時間体制で事務員を付けて精算できるようにすれば良いが、経営的に難しい。緊急的でない人が来られることもある。松江日赤病院や松江市民病院では、3,150円とられる。雲南病院では、そこまではしていなくて、5,000円いただいてから、精算するようにしている。検討させていただく。(健康福祉部)

#### 大東町久野地区

##### Q317 [地域の高齢者福祉事業について]

福祉委員会を立ち上げ取り組んでいる中で、活動の重点事業としていきいきサロン事業展開をしている。年間1万円の助成を出してもらっているが、今後も進めていくのなら市の方でも重点的に財源を充てて取り組んで欲しい。

A

いきいきサロン事業は今までも社会福祉協議会から財源を出していただき、1サロン年間1万円でやってもらっている。地区の福祉委員会も盛んにしていただきたいということで、今回推進委員さんの手当てについて市で財源を充てている。いきいきサロンも継続していく。これを削減することは考えていない。(健康福祉部)

##### Q318 [居宅介護奨励について]

現在、特別養護老人ホームがいくらあっても足りない状況で、なぜ国も自治体も家庭介護に重きを置けないのか不思議に思う。施設を建てて、介護職員も大勢必要で相当コストがかかっていると思うので、自宅での介護を奨励されてはどうか。いろいろな弊害があることも承知しているが、近く雇用の場ということで、手当てを出し、同居を奨励されるような変わった施策をやられてもよいのではと思う。

A

居宅介護をすすめるべきということ、ぜひそうあらねばならない。介護保険制度は施設介護よりも居宅介護をすすめる方策を展開しているが、居宅介護は労力・経済の負担を伴う。高齢化社会となり、家庭によっては老老介護で介護する側の人先がダウンしてしまう。家の構造もバリアフリーにしなければならない。また、家族の絆の脆弱さも大いに影響している。雲南広域連合管内1市2町で特別養護老人ホームが9つある。居宅介護奨励しているのにもかかわらず、待機者も600人弱ある。今まで以上に居宅介護が可能になるような政策をやらねばならないが、教育の問題から入らねばならないし、家の構造についても事業資金が必要で、どこまで個人資産に税金を投入するかも整理しなければならない。介護保険制度を活用してできるだけ居宅介護が可能になるよう、家族と話し合いをしながら進めていこうとする。今後もさらに力を入れて検討する。(市長)

#### 大東町大東地区

##### Q319 [雲南総合病院の改築の方針について]

雲南病院の医師確保と経営体系についてはいろいろ取組みがなされているが、これについてはさらに努力をお願いしたい。合わせて、雲南病院の市立化へ向かう中で古くなった本館の改築と総合的な整備計画が検討されなければならないと思う。地元として大いに期待と関心を持っているが、改築場所は現在地になるのか、他の場所になるのか現段階の方針を聞かせていただきたい。

A

昭和42年7月に正面玄関がある施設が建設されて42年が経過してかなり老朽化している。今、一番厳しい状況の中だが医師確保の見通しをたてながら市の皆さんの生命を守る救急外来を中心として、必ず地域に無くてはならない診療科をどうするのか、早急に詰めなくてはいけないと思う。残す診療科とベッド数が足りないところは松江また大学とどういう診療方針をもって望むのか検討していく必要がある。場所ということ、大東地域に病院があり大東・加茂については開業医の先生方が行われる一次医療の役割を

<p>果たしてきたこともあり、事業費が大きくなる問題もあるので現状を踏まえて検討が必要となる。(健康福祉部)</p>
<p>Q 3 2 0 [雲南総合病院の改築に関する所感について]</p> <p>先ほど病院のことを言ったが、現段階の方針を聞かせて下さいと言った。新しく建てるとしたら今の場所以外の雲南市の中心でもいいのではないかという意見も聞いているが、市長の方から聞かせていただきたい。</p>
<p>A</p> <p>まず、病院の建設場所については、これから病院を改築、新築をすることになると、検討項目の中に「場所はどこにするのか」は当然入ってくるが、これまで雲南病院が大東町においては第一次医療いわゆる開業医の先生が担われる役割と同じ役割を担って現在に至っている。あの地域から他の病院へ全部移して新しい病院を建てることになると莫大な事業費がかかる。そういう現状を踏まえると検討項目の対象とはなるが、検討の際には、今までの実態というのが大きく影響するのではないかと思っている。(市長)</p>
<p>Q 3 2 1 [関連質問]</p> <p>雲南病院の現在の位置は、印象的にはあまりいいとは思わない。と言うのは、今は無いが昔は病院の周りを寝巻を着たままブラブラしておられてあまり印象は良くないと思った。</p>
<p>A</p> <p>患者さんに快適に入院生活を送っていただく、気持ち的に楽に過ごせるよう対応していきたいと思うので、ご協力をいただきたい。(市長)</p>
<p>Q 3 2 2 [雲南広域連合の介護保険交付金の過少請求について]</p> <p>新聞沙汰にもなったが、介護保険事業で職員のミスによって大きな穴があいた。要するに調整交付金を請求するのに金額を間違え、3,000万円の穴があいた。このことについて、最終的にどう処理されたか、されようとしているのか。</p>
<p>A</p> <p>「接遇日本一」と言ってきているが、冒頭不祥事が生じたことは全く相反することで、弁解の余地はない。こうしたことが、二度と起きないように気をつけて行きたいと思っている。</p> <p>調整交付金を少なく請求したが、その結果70%は国が補填、あとの30%も補填をすると見解を示している。70%の補填をするという考え方は、最終的には今年と年末にはっきりとしたパーセントが示されることになっている。実際に補填されるのは、今年度末と思っている。後の30%は、どうするのかということについては、この30%が少なくなったから保険料を上げるとかあってはならないので、上げなくて済む対策を一生懸命講じているので、この点については心配はいらない。何故、こうしたミスが生じたのか不注意以外何ものでもない。ただ、全国でも同じような誤りが複数みられたということで、同じ間違いをしている。これは、同じ間違いをしても仕方がない国の文章の書き方、これについては国の方に今後このようなことが無いように申し入れを行った。しかし、これは市の言い分であり、結果は不注意なので今後このようなことが起きないように努めていきたい。(市長)</p>
<p>[再質問]</p> <p>不注意で起こったことは仕方がないので、今後無いようにお願いしたい。市長は、「住民の皆さんには、一切ご迷惑をかけません」ということをはっきりと言われたが、具体的にはどうされるのかといった時に、知っている限りとりあえず基金の取崩しをやりたいと、その後は介護予防を充実させることによって穴埋めをしたいということと言われたと聞いているが変わりないのか。</p>
<p>A</p> <p>おっしゃったとおり、短期的には基金の取崩しによって、被保険者の方にはご迷惑かけないということはあるが、取崩したままだと少なくなり、いずれ影響が出てくるのではないかという気持ちを思っておられると思う。基金は取崩させてもらうが、これの回復に努めることをやっけて行かなくてはならないと思っている。(市長)</p>
<p>[再々質問]</p> <p>新しい制度として介護予防制度ができて行政も一生懸命取り組んでいる。我々民間、ボランティア団体がいろんところで、例えば介護保険の対象にならないように長生きをしようと、それによってどんな効</p>

果があるかという、住民の皆さんの介護保険料を上げないことになる。それが一番大事なことで、それを極端な話、空いた穴に埋められるということは即住民の負担にかかることではないか。仮にそうだとすれば「住民の皆さんには、一切ご迷惑をかせません」とおっしゃったことと、若干違うのではないか。私は、提案したいと思うが、不祥事があつた、不注意によって大きな穴が空いた。例えば、駐車料金1,000円を3,000円にして何年かかるか分からないが、職員が連帯責任のもとにそういう行動に移していただければ住民の皆さんにも納得がいただけるのではないか。それを介護保険の穴埋めと言われると、正直、何のために予防介護をやるのか。その結果は、我々住民の介護保険料が5,000円になろうとしている。それを何とか縮小するための介護予防である、それは穴埋めに使うべきでないと思う。

A

介護保険事業で積み立てている基金を、今、国から入ってくる調整交付金が約3,000万円少なくなるだろうと思いますが、それをどうするかと言った時に選択肢としては、短期的に3,000万円足りなくなったので保険料を上げさせて下さいというのか、あるいは介護保険事業で積み立てている基金から一時借りて、不足の3,000万円を埋めるのかということになると、当然、保険料を上げさせて下さいとは言えないので、現実的な対応として基金を取崩してとりあえず3,000万円を入れさせていただく、基金が約6億ありますので、一時的に借りて必ず埋め戻しますということで、1市2町の皆さんにはお話をしていることにご理解をいただきたい。職員が連帯責任をもつ形で、いろいろな不祥事等の責任を果たすことによって答えるべきではないかと指摘をいただいたが、おっしゃったとおりでそれは物資的か金銭的か一生懸命仕事に精を出すことによって答えるなどいろいろあると思う。少なくとも申し上げているとおり、続けて不祥事が起こっており、二度とこうしたことが起きないように頑張っていくことにより、責任を果たしていきたいと思う。(市長)

#### 大東町幡屋地区

##### Q323 [雲南総合病院の移転改築場所について]

それから雲南病院を市立病院化するということが、今大東町内では市立化をして移転して大東からなくなるという話がぞろぞろ流れている。この間あつた大東の会でもそのような不信感が出ていたと聞かす市立化をして整備をするのにあの場所とするのか、他へ場所を移転するか白紙から議論するとのことだが、実態はどうなのか。市立化になって大東から無くなってしまふとどうにもならんと思うので一つ想いのほどを聞かせて欲しい。市長さんの医療と保健の融合施設との関連もあるのではないかと思うけれどもその関係から場所を移転すると出ているのかと思うが。

A

それから雲南病院、建て替へるとすれば移転することがあるかということ、結論的に断定的な言い方はできないけれど、それは非現実的なことだろうと思っている。と言うのも雲南病院は地域医療の中心として、開業以来開業医的な役割も果たし、地域医療の役割を果たして来た大東町にとっては愛着の深い病院であり、ここからまた全面的にどこかへ行くとするといくら金がかかるかわからない。ただ建て替へを検討するかということになると検討委員会を設置して、どういう病院の在り方があるのか、新しい病院の在り方が求められなければいけないか、をテーマとした検討委員会を設置して検討されると思う。項目の一つとして建設場所も当然出ると思うが、開院以来今日まで地域で果たしてきた役割、地域の皆さんの愛着、そういった事を第一として他地域への移転は極めて非現実的ではなからうかという気がしている。従って医療と保健の融合施設との関係は全くない。(市長)

#### 大東町海潮地区

##### Q324 [雲南総合病院の医師確保について]

さきほど市長から病院の話がでたので、余談だが私も4月に動脈剥離で救急車のお世話になり、その際、雲南病院に行こうとする救急の隊員に雲南病院は医者がいないことを心配したところ、病院には連絡済みとのことで、運ばれた。案の定雲南病院では対応が出来ず、医大に行くことになったが、最初からならば日赤が近かった。退院し通院となると月曜日しか雲南病院には先生が来ないということがあり、病気になったら大変困ると感じた。病気になるなら月曜日になればと言われたがこれでは安心できない。安心できる

病院になるように早く医師の確保をお願いしたい。

A

医師確保対策について、ご迷惑をおかけしている。この対策についても短期的中長期的対策を進めている。短期的対策として島大からの派遣の医師を多く確保していくこと、雲南市出身の全国に散らばる医師を地元呼び戻すことに県とともに力を入れている。島大学生の研修を受け入れること、地域出身推薦枠制度が始まって以来、本年、医学生7人が最高学年であり来年の卒業とともに地元で勤務することに期待している。(市長)

#### 大東町佐世地区

##### Q 3 2 5 [人間ドックについて]

国民健康保険加入者を対象とした人間ドックの補助は2年に1回となっているが、医者からは毎年受けるように言われている。毎年受けられるようにできないか。

A

国民健康保険加入者の人間ドックは2年に1回の補助となっている。雲南病院120人、平成記念病院40人、掛合診療所10人であり計170人の定員で毎年実施している。今のところ1年おきでお願いしたい。人間ドックが受けられない年は、市で実施している特定健診とがん検診をセットで受けていただきたい。人間ドックとちがい1日ですべてが受けられる訳ではないが、費用負担では半分以下ですのでお願いしたい。(健康福祉部)

#### 大東町春殖地区

##### Q 3 2 6 [公立病院の再建策の事例について]

雲南病院が来年度から公立病院になることが決定されている。全国でもいろいろ成績の悪い病院が良くなったという話がある。市立病院になると出前講座事業や地域の医療サービス向上と我々の安心安全の町づくりに努めていただきたい。

近年は特に難しい地方自体の経営する病院だが、坂出市立病院は全国で最低の病院成績でもあったようだが、院長さんや市、市議会、職員一致協力によって着々と成績を上げられ、現在では、1～2位の成績になったようで、いろいろと本が出たり講演に歩かれたりした例もあるようだ。

当市立病院も、そういう事例もあるので負けないような病院づくりに努めてもらいたい。

A

市立化を契機にこの地域で役割りを果たしていくためには、たくさんの課題を抱えている。しかし期待に答えられるような病院にするためには病院の職員が一丸となって努力することが最も大切であると考えている。先ほど指摘のあった坂出病院は、塩谷先生という院長先生で、昨年病院関係者と一っしょに我々も視察に行って直接お話を伺った。

坂出病院、日本一の赤字病院という所へ来て職員の前でまず指摘したことがあるということで、この病院がなぜこういう風になったかということ。まず基本理念が明確でない。2つ目には明確で具体的なしかも達成可能な組織目標がちゃんとしていない。3つ目に良い医療を提供するためには、ちゃんとした管理システムが必要だと。それから医療と経営が分離しているのではないか、あるいは、チームプレイが機能していないのではないかと。それぞれの職種間で場合によっては、責任転嫁が行なわれているということ。医療を提供していれば良いことではなくて、こうした反省点をみんなで一緒になってひとつひとつ解決していくために自分は何をするのかと、そこをきちっとはっきりさせて組織的にしていこうではないか。という話しを強調して改革したということだった。

全国1千の自治体病院があるが、うまくいった例はそうした視点で熱心に取り組まれている。残念ながら、医師不足と言うことで、そううまくいっていないというのが全体像である。平成19年度決算では全国1004の内4分の3が赤字、単年度収支が赤字でということで累計すると5,290億円、一病院当たり5億を超えている。雲南総合病院も7億ぐらいの状況がある。医師不足ということが圧倒的な理由で先ほど市長が説明したとおりだが、21年度から3年間計画でステップアッププラン経営改善の計画を立てて現在目標を定めて努力している所である。

基本理念は、地域に親しまれ信頼され愛される病院、目指す方向性としては患者の皆さんに安心して選んでいただける病院、開業医の皆さんに在宅医療のバックアップとして信頼して選んでいただける病院。それからお医者さん看護師さんが是非公立雲南病院で働きたいという病院を目指すという大きな目標を掲げて、たいへん厳しい中だが最低限必要な救急医療を維持する。あるいは急性期と回復期の病院機能を維持する。松江出雲の高度医療との連携、開業医との連携をしながら公立雲南総合病院がこの地域で役割を果たす。これから取り組むということで努力を重ねているところである。

まだ不十分だが、たいへんな中で出来るだけお医者さんも地域の中へ出掛けて皆さんと色々な意味で話しをしながら、努力したいと言う気持ちである。また大東が地元の病院だということで、市民の皆さんにボランティア活動を積極的に取り組んでいただいている。こういった背景を受け病院職員もいっそう頑張ると考えるので、どうか地域の皆さんの叱咤ご激励・暖かいご理解とご協力をいただきたい。(健康福祉部)